

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 6月12日 更新

事務事業名		公営住宅維持管理事務事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	事業部	課長名	辻 賢一郎
	施策	9 住環境の充実				所属課	都市計画課	担当者名	福岡 綾
	基本事業	25 公営住宅の充実				所属班	都市計画班	(内線)	2233
予算科目		会計一般	款8	項5	目1	事業連番10158	法令根拠	公営住宅法・特定優良賃貸住宅の促進に関する法律・合志市営住宅 条例	
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		
								成果優先度評価結果	③
								コスト削減優先度評価結果	⑧

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	公営住宅264戸と特定賃貸住宅37戸の補修を行う。補修を要望するものからの連絡により実施する。・昭和32年に旧西合志町で御代志住宅を建設し、住宅管理事務が開始された。・南原住宅は平成16年度より建替えを実施しており、平成20年度で終了した。 ・現在の入居者からは床や浴槽の修理交換等建物本体に係る補修の要望が多く、退去後の修繕では床や、水廻り設備の修繕費用が高額になってきているので、住宅の今後の活用計画を定める「長寿命化計画」を策定する。 ・原口住宅1棟が白蟻で使用できないので、用途廃止し解体する。 ・5年毎の住生活総合統計調査を行う
【業務の流れ】	連絡により補修箇所を現地にて確認し、直接又は業者に補修を依頼し施工する 長寿命化計画は、交付金申請⇒交付金決定⇒計画策定業者決定⇒計画策定⇒交付金交付
【主な予算費目】	需用費・役務費・委託料・工事請負費・原材料費
【意見や要望】	・南原住宅より調整池の管理委託料を頂きたいとの要望があった。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 補修を要望する入居者からの連絡により、現地を確認のうえ市営住宅の補修を行った。 御代志住宅ガス警報器取替、サンヒマワリあいおいフェンス目隠し板設置、南原住宅ガス警報器取替を行う。		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 長寿命化計画を策定し、市営住宅の補修を要望する入居者からの連絡により、現地を確認のうえ補修を行う。 南原住宅ガス警報器取替、御代志住宅のガス供給機器の取換え、原口住宅を一部解体し、を行う。 住生活総合統計調査を行う
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:修繕費・維持工事の件数	件	【拡充事業】長寿命化計画策定のため委託料の増
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
住宅の補修を要望するもの。		→ア:補修の要望件数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
安全に住むことが出来る。		→ア:要望どおりに補修が出来た割合
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト全体計画～年度
市営住宅に安全で快適な状態で居住できているかを判断するため、補修要望への対応を成果指標に設定。平成22年度の目標値については、要望について必要であれば随時対応するため100%に設定した。		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込	
① 活動指標	アイ	件	105	106	80	89	80	80	80	80	
② 対象指標	アイ	件	105	106	80	89	80	80	80	80	
③ 成果指標	アイ	%	100	100	100	100	100	10	100	100	
投資 入費 量	事業 費	国庫支出金	千円	5,602	5,064	8,269	6,164	10,091	8,170	8,170	8,170
		都道府県支出金	千円					60			
		地方債	千円								
		その他	千円	45				2,550			
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	5,626	2,711	42	1,319	825	30	30	30
	(A) 事業費計	千円	11,273	7,775	8,311	7,483	13,526	8,200	8,200	8,200	
		(A)のうち指定経費	千円	0	27	42	27	18	30	30	30
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
人件 費	正規職員従事人数	人	5	5	4	7	4	4	4	4	
	延べ業務時間	時間	1,450	1,240	1,200	1,240	1,200	1,200	1,200	1,200	
	(B)人件費計	千円	5,974	5,007	4,845	5,048	4,845	4,845	4,845	4,845	
トータルコスト(A)+(B)			千円	17,247	12,782	13,156	12,531	18,371	13,045	13,045	

事務事業名	公営住宅維持管理事務事業	所属部	事業部	所属課	都市計画課
-------	--------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 要望に対し現地を確認のうえ、必要に応じ随時補修を行うため目標達成は可能
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 必要に応じて補修をしているので、向上の余地はない
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 公営住宅管理事業と公営住宅維持補修事業を統合したので、他に類似事業はない
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 老朽化による補修費の増加を抑えるため、直営の補修を増やすと、補修額の上昇を抑えることができる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 すでに職員削減を行い、補修の外部発注を行っているので、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 入居者からの要望により、補修を順次行っているので公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 維持管理も含めた委託により、団体等へ移行可能と思われる。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

各施設の老朽化のため補修要望が増えてきており、費用が増加傾向にあるため、今後の住宅の活用方法を考慮した上では計画的に補修を行っていく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												